



番外編 統一地方選挙の総括

「今までどおりで結構です。」…選挙結果についてテレビインタビューを受けたある年配女性有権者の答えである。

私の行動の出発点は世界に追いつけない日本の現状に対する危機感だった。

知事選の応援演説の中で高島市長は「危機感を共有できていないことに危機を覚える」とし、麻生副総理は「現状維持は衰退だ」と述べた。これに対して「今までどおりでいいのだ」という有権者の答えは重い。

「いや今回の選挙結果は政策とは別の政治的要因によるものだ」との解説もある。仮にそうだとしても、多くの有権者が現状維持を望むからこそ、現職知事を選ぶ結果となったことは間違いのない。これとどう向き合えば良いのだろうか。

明治維新も当時の大衆が好んで始めたわけではない。黒船来航・幕藩体制崩壊に始まる。戦後の驚異的経済発展も、戦争による旧来秩序の徹底的破壊からスタートした。「黒船はもう来ない！」を書いたチャールズ・レイク氏は「偉大なる国日本」は外圧に頼ることなく第三の開国をしなければならぬと述べたが、それから早10年が経ってしまった。そして今海外諸都市のすさまじい発展ぶりに目を向ける時、一層焦燥感が募る。

日本は自分で自分を変えることができるだろうか。

選挙を通して改革を進めることは本当に難しい。

しかし改革を実践できる場は地域にあり、その原動力は政治的リーダーシップだ。

私は自ら旧秩序を破壊し新秩序を打ち立てる卓越したリーダーに社会を委ねたい、そして私自身は改革の必要性を地道に発信し続けたい、と考えている。